

豊友会だより第九回俳壇へのご応募ありがとうございました。投句いただいた全作品を掲載いたします。
次回、第十回俳壇へのご応募をお待ちしております。 豊友会だより編集係

第九回豊友会俳壇(豊友会だより第68号)

兼題－1：夕立

投稿者	作 品
赤塚 慎一郎	夕立の去りて朴葉の青幾重
浅見 茂	夕立の軒の雫に陽の匂い
岩井 鑛治郎	江の島に明かり残して夕立過ぐ
上田 正隆	夕立が迫りて急ぐ下山道
海外 涼	泣きし子の泣き止む如き夕立かな
川畑 耕祐	夕立が来るらし空のかき曇り
川上 千里	必死なるハンドル捌き大夕立
黒山 茂英	夕立の雲間に眩し日の目かな
小泉 隆広	夕立の幌かけるも間もなき足早さ
斎藤 光	夕立後もの売の声いや増せり
齋藤 修一	夕立予報雨に傘なく駆ける人
櫻井 暎子	夕立ちに思わず見上げる空模様
重田 康之	夕立の埃立つ街洗ひけり
高野 ちかの	驟雨の後の ^{ひとしき} 一頻り蝉の泣く
武川 順子	夕立の去りし空には虹の橋
田中 道泰	遠山の近こうなりけり夕立あと
土田 悦男	雨上り雫はピアス赤い薔薇
富宇賀 孝	大夕立ちょうど床屋で雨宿り
中村 隆晴	川と化し行く手を ^け ^ゆ 阻む ^{はば} 大夕立
野下 晴夫	稲光爆音ならして雨降らず
宮田 奈津子	雨粒が水面を走る大夕立
矢倉 弘泰	街音を全てかき消し大夕立
屋代順治郎	夕立や畑に残る耕耘機
矢治 宏之	夕立風辺り一瞬暗くなり
山中 基資	真夏日に夕立がよぶ風すずし
吉武 繁廣	ガタピシと静寂を破る白雨かな

兼題－2：案山子

投稿者	作 品
赤塚 慎一郎	峡深き案山子の笠の影踊る
浅見 茂	稲穂ゆれへのへのもへじ黒々と
岩井 鑛治郎	田をかばう網を見晴らす案山子かな
上田 正隆	雨上り虹を眺める案山子かな
大坪 孝至	残されし田んぼに案山子ちらほらと
海外 涼	なんとこの作り手感ず案山子かな
川畑 耕祐	近寄るなニラミを効かす案山子かな
川上 千里	頬紅を刷かれおしゃれの案山子かな
黒山 茂英	雨に日に直立不動老案山子
小泉 隆広	コロナ禍をとうせんぼする案山子かな
斎藤 光	捨案山子空は広いな大きいな
齋藤 修一	知恵くらべ案山子に烏とまりけり
櫻井 暎子	案山子さん横に並んで背くらべ
重田 康之	銘仙を纏ふ案山子の上州路
高野 ちかの	「コンニチワ」案山子見上げる曾孫かな
武川 順子	ひと休み案山子と会話疲れ飛ぶ
田中 道泰	不細工な案山子は祖父の遺品といふ
土田 悦男	「こんにちは」 ^{たく} 巧みな案山子に話しかけ
富宇賀 孝	人の来ぬ谷戸も奥なる案山子かな
中村 隆晴	稲刈りて胸撫で下ろす案山子かな
宮田 奈津子	役目終え星を見ている案山子かな
矢倉 弘泰	無農薬の棚田を見張る案山子かな
屋代順治郎	黄金田に夕陽纏ひし案山子かな
矢治 宏之	鳴らぬ鈴首から下げる案山子かな
山中 基資	勲章も着かざる案山子コンテスト
吉武 繁廣	来年も頼むと案山子繕へり

自由題:夏・秋

投稿者	作 品
赤塚 慎一郎	早や秋と眩く妻の傍に
浅見 茂	蟋蟀が鳴くや音なき闇の中
岩井 鑛治郎	どくだみの白花の浮く庭の闇
上田 正隆	梅雨曇り皆既日蝕雲の中
海外 涼	朝顔の細き枝葉に白き花
川畑 耕祐	新婚の名残昭和の扇風機
川上 千里	捨てきれぬ父の手紙や敗戦日
黒山 茂英	こわごわにきざむ玉葱妻の留守
小泉 隆広	秋の風麓を里を順に染む
斎藤 光	鳳仙花五百羅漢の花屏風
齋藤 修一	なに気なく見過ごした薔薇気にかかり
櫻井 暎子	蒲の穂の真綿のような柔らかさ
重田 康之	山寺へ上り疲れて夏木立
武川 順子	オンライン画面のくちなし薫りせず
田中 道泰	秋風鈴一句盛夏と残されて
土田 悦男	麦秋の黄金の海バスを待つ
富宇賀 孝	盆の月武州名物ざるうどん
中村 隆晴	実る秋神はいずこに宿るらむ
野下 晴夫	赤々と花揺れ動きサルスベリ
宮田 奈津子	大夕焼ジェット機までも染め上げて
矢倉 弘泰	背丈ほどの草木の中を捕虫網
屋代順治郎	寄せ波に砂城崩るる夏の海
矢治 宏之	新涼の峡に灯りの三つ四つ
山中 基資	苺たべ思い出すのは練乳
吉武 繁廣	夏座敷ワクチン接種終へて座す